

目視調査による建物安全性判定 (応急点検チェックリスト)

EP イー・アール・エスは、不動産に関わる広範なリスクマネジメントサービスを、エンジニアリングの視点から提供するコンサルティングファームです。

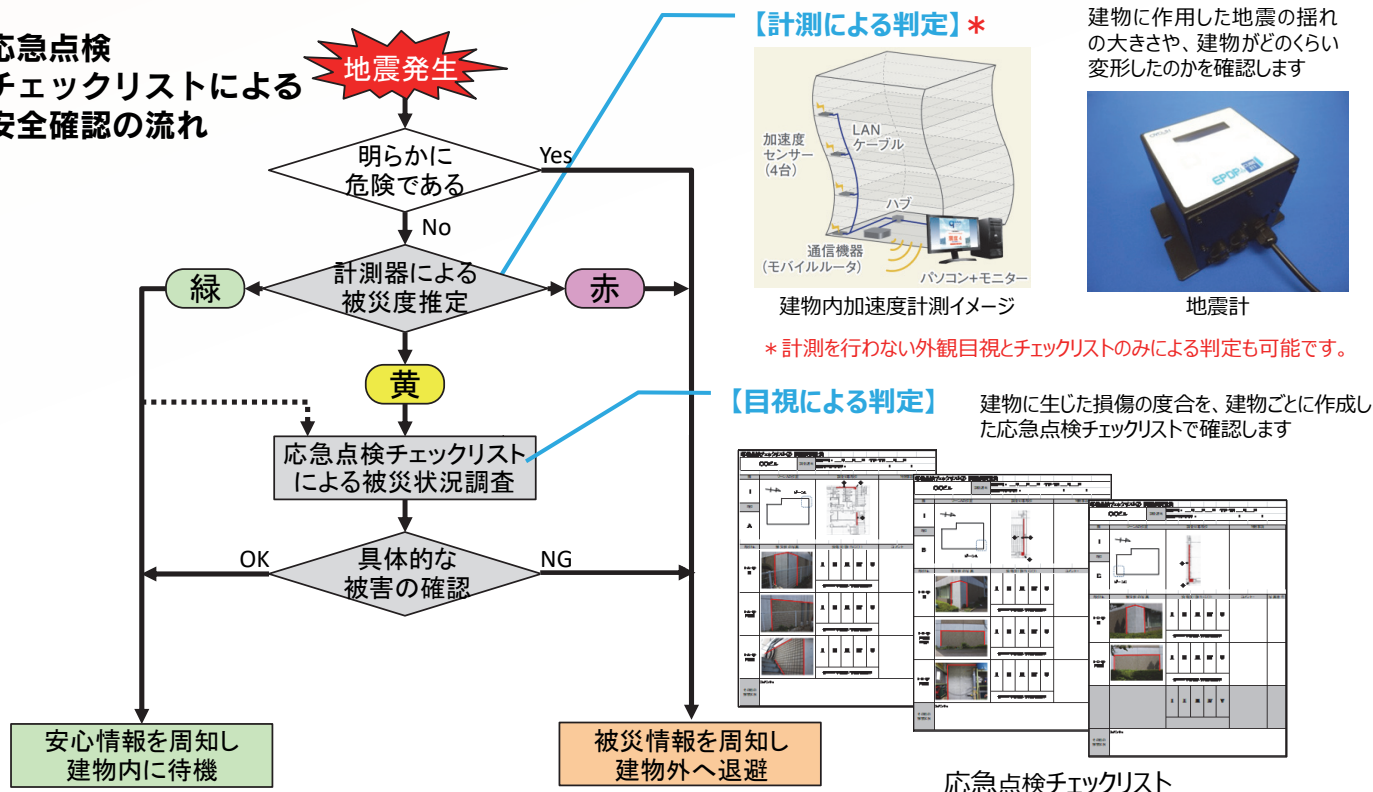
RM リスクマネジメントサービス 自然災害 地震／津波／液状化／BCP 洪水／土砂災害／高潮／噴火 様々な自然災害の影響評価、 建物・施設の調査と被害の定量的算定、 BCP支援策などをご提供します。	SE 上環境サービス 土壌汚染 揮発性物質／自然由来／重金属 油／法令遵守／BROWN FIELD 正確性と厳密性を礎に、次の 土地利用をオーナー様と共に見据え、 合理的・効率的な調査・評価を行います。	DD デュー・デリジェンスサービス 土地・建物 維持・保全／健康被害／法令遵守 経年劣化／法改正 不動産証券化の黎明期から、説明力と 中立性にこだわるエンジニアリング レポートをお届けし続けています。	EM エネルギーマネジメントサービス エネルギー CO2排出／省エネルギー 再生可能エネルギー／未利用エネルギー エネルギー最適化の評価・提案と、 多様化する再生可能エネルギー施設の 健全性・事業妥当性を評価します。
---	---	--	--

点検リストに専門家の目を移植

首都直下地震や南海トラフ沿いの巨大地震等の大規模地震が発生した際は、被災した建物・施設の安全性を判断できる専門家の不足が懸念されています。一方で、自治体様が保有・運営する公共施設には、被災者の避難所や復旧活動拠点としての機能が求められ、**地震の後に建物を継続使用できるか否かの早急な判断**を下す必要があります。

本点検リストは、被災した建物の重要なポイントを目視で調査し、建物全体の健全性を判断する際に用いるものです。**予め専門家による点検ポイントの絞り込みや判定基準が明確に定められているため、専門家でもとも迅速な判断が可能となります。**

応急点検 チェックリストによる 安全確認の流れ



目視調査による建物安全性判定 (応急点検チェックリスト)

応急点検チェックリストの特徴

応急点検チェックリスト② 損傷度調査表				
OOPDL		調査種元	調査日時: 年 月 日 午前/午後 時 分	
		調査者氏名(所属):	()	
階	ゾーンAの位置	調査対象部位	特記事項	
1				
部位				
A				
部位No.	被災前の写真	損傷度(該当に○)	コメント	写真番号
1-A-① 柱		I II III IV V		
		(例示1から最も高い損傷度を選択)		
1-A-② 耐震壁		I II III IV V		
		(例示1から最も高い損傷度を選択)		
損傷度の例示				
損傷度 I	損傷度 II	損傷度 III	損傷度 IV	損傷度 V
損傷 I と見られる損傷の部位(損傷 I-III)は、損傷 I-III のいずれかを選択する。損傷 I-III のいずれかを選択する場合は、損傷 I-III のいずれかを選択する。損傷 I-III のいずれかを選択する場合は、損傷 I-III のいずれかを選択する。	損傷 II と見られる損傷の部位(損傷 II-III)は、損傷 II-III のいずれかを選択する。損傷 II-III のいずれかを選択する場合は、損傷 II-III のいずれかを選択する。損傷 II-III のいずれかを選択する場合は、損傷 II-III のいずれかを選択する。	損傷 III と見られる損傷の部位(損傷 III-IV)は、損傷 III-IV のいずれかを選択する。損傷 III-IV のいずれかを選択する場合は、損傷 III-IV のいずれかを選択する。損傷 III-IV のいずれかを選択する場合は、損傷 III-IV のいずれかを選択する。	損傷 IV と見られる損傷の部位(損傷 IV-V)は、損傷 IV-V のいずれかを選択する。損傷 IV-V のいずれかを選択する場合は、損傷 IV-V のいずれかを選択する。損傷 IV-V のいずれかを選択する場合は、損傷 IV-V のいずれかを選択する。	損傷 V と見られる損傷の部位(損傷 V)は、損傷 V を選択する。損傷 V を選択する場合は、損傷 V を選択する。損傷 V を選択する場合は、損傷 V を選択する。
損傷 I と見られる損傷の部位(損傷 I-III)は、損傷 I-III のいずれかを選択する。損傷 I-III のいずれかを選択する場合は、損傷 I-III のいずれかを選択する。損傷 I-III のいずれかを選択する場合は、損傷 I-III のいずれかを選択する。	損傷 II と見られる損傷の部位(損傷 II-III)は、損傷 II-III のいずれかを選択する。損傷 II-III のいずれかを選択する場合は、損傷 II-III のいずれかを選択する。損傷 II-III のいずれかを選択する場合は、損傷 II-III のいずれかを選択する。	損傷 III と見られる損傷の部位(損傷 III-IV)は、損傷 III-IV のいずれかを選択する。損傷 III-IV のいずれかを選択する場合は、損傷 III-IV のいずれかを選択する。損傷 III-IV のいずれかを選択する場合は、損傷 III-IV のいずれかを選択する。	損傷 IV と見られる損傷の部位(損傷 IV-V)は、損傷 IV-V のいずれかを選択する。損傷 IV-V のいずれかを選択する場合は、損傷 IV-V のいずれかを選択する。損傷 IV-V のいずれかを選択する場合は、損傷 IV-V のいずれかを選択する。	損傷 V と見られる損傷の部位(損傷 V)は、損傷 V を選択する。損傷 V を選択する場合は、損傷 V を選択する。損傷 V を選択する場合は、損傷 V を選択する。

■ 特に重要な点検ポイントを
専門家が事前に絞り込み

■ 点検ポイントの損傷度判定は、
事例を参照で専門家でなくともOK

サービス内容

- 建物の構造的な特性や現場の状況を踏まえたシステムの構築
 - ・ 計測器設置のための調査・検討、計測器の実装
 - ・ 損傷度合を確認する箇所を抽出し、応急点検チェックリストを作成
- システム運用マニュアルの作成および運用方法の説明・訓練



オプション【q-NAVIGATOR®とのコラボ】

q-NAVIGATOR®とのコラボ



構造特性に応じて複数階に設置したセンサーにより計測・判定を行うq-NAVIGATOR®との組み合わせが可能です。

【本商品は(株)小堀鐸二研究所が提供します】